

（別紙）

# 施策評価シート

教育委員会の事務の点検・評価報告書

（令和6年度事業分）

施策の方向（施策目標、施策の方向性）			所管課所
未来をたくましく 生きる力を育む 教育の推進	I - 1	小中一貫教育の充実	学校教育課
	I - 2	知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む教育の推進	学校教育課
地域全体で子供 を守り育てる環境 づくりの推進	II - 1	家庭の教育力の向上	社会教育課
	II - 2	地域の教育力の向上	社会教育課
	II - 4	総合的なネットワークの連携強化	社会教育課
	II - 5	「少年自然の家」における青少年教育・生涯学習の充実	少年自然の家
生涯学習の充実 をめざす環境づく りの推進	III - 1	生涯学習の展開	社会教育課
	III - 2	図書館機能の充実と読書活動の推進	中央図書館
	III - 3	生涯学習を進めるコーディネート機能の充実	社会教育課

【基本情報】

<b>1 施策目標（I - 1）</b>	
I 未来をたくましく生きる力を育む教育の推進	
<b>2 施策の方向性</b>	
I - 1 小中一貫教育の充実	
<b>3 施策（施策を実現するための主な事業等）</b>	
(1) 全中学校区における小中一貫教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育研究公開の実施</li> <li>・児童生徒の交流活動や教職員の授業交流の充実</li> </ul>
(2) ふるさと教育と「ふるさと・コミュニケーション科」の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「薩摩川内元気塾事業」と「甑アイランドウォッチング事業」の実施</li> <li>・「ふるさと薩摩川内学（改訂版）」の活用</li> </ul>
(3) 英語力向上プラン事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語サマーキャンプ、中学校英語発表会の実施</li> <li>・英語検定試験の受験支援</li> </ul>
(4) コミュニティ・スクールの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者評価委員会の充実</li> <li>・「地域学校協働活動」との連携</li> </ul>

【施策の取組状況】

<b>4 取組実績及び教育振興基本計画に掲げた数値目標の達成状況</b>	
全中学校区における小中一貫教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導提要に基づき、小中一貫教育を生かした子どもたちの居場所づくり、子ども同士の絆づくりや義務教育9年間を見とおして、学力向上を図るための授業改善を推進するよう指導してきた。「小6の入学前の不安感」は減少傾向にある。</li> </ul>
ふるさと教育と「ふるさと・コミュニケーション科」の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校で、「ふるさと薩摩川内学（改訂版）」を活用した地域に根ざしたふるさと教育を実施した。</li> <li>・甑アイランドウォッチングは、13校が実施し、甑島の美しい自然や伝統文化に触れたことで、92.1%の児童が「甑島に行って良かった」、94.7%の児童が「また行きたい」と回答しており、目的を達成することができた。（天候不良で、4校が中止）</li> <li>・薩摩川内元気塾は、全校で実施できた。延べ開催回数は86回であった。</li> </ul>
英語力向上プラン事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語検定補助事業（1人年1回、3級・4級）は、私立中学校を含め70.9%の申込み実績である。</li> <li>・英語サマーキャンプは、宿泊型で、本土区域と甑島区域を合わ</li> </ul>

	<p>せて、38人の参加で様々なアクティビティを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校英語発表会は、R 6 年度から、宮之城中を加えて川薩地区の中学生24人が参加し、「マイホームタウン」というテーマで自分が住んでいる町を紹介した。</li> </ul>
コミュニティ・スクールの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校経営への参画という学校運営協議会委員の重要な役割について、繰り返し指導・啓発を行った。また、中学校区を中心とした年5回の学校運営協議会の充実に向け、地域と家庭・学校が、積極的に協力し合いながら課題解決に向けて主体的な取組が行われた。</li> <li>・ 児童生徒の声をコミュニティ・スクールに反映するために、学校運営協議会に参加したり、児童生徒の意見を取り入れたりしながら、より充実した取組につなげる学校が増えてきた。</li> </ul>

◇指標及び実績

指 標	教育振興 基本計画 策定時	実 績					数値 目標
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
小 6 の中学校入学前の不安感	58.3% (H30)	53.9%	58.2%	58.8%	60.9%	41.3%	50%未満 (R 6)
中学校卒業時における英語検定試験 3 級以上の取得率	41.4% (H30)	未実施	47.7%	52.7%	53.1%	59.4%	55.0% (R 6)

【点検及び評価】

5 1次評価（自己評価）		
妥当性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校区ごとに、課題や校区の特色を踏まえた小中一貫教育に取り組んでいる。R 6 年度は、水引小・中が研究を公開し、他への波及効果が期待できるものだった。</li> </ul>
効率性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中一貫教育や学校運営協議会の際に、リモートを活用して、移動時間を削減したり、内容の周知を図ったりするなどして、効率的に進めるようにしている。また、小中一貫教育やコミュニティ・スクール等の取組を「魅力ある学校づくり」と一体的に取り組むことで、効果を上げている。</li> </ul>

達成度	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>・「中学校卒業時における英語検定試験３級以上の取得率」は向上した。</p> <p>・「小６の中学校入学前の不安感」を持つ児童をさらに減少させていきたい。</p>
＜今後の取組・課題＞		
<p>・「小６の中学校入学前の不安感」を一層減少させるために、小中一貫教育の中で乗り入れ授業や小中の学習を通して交流を積極的に推進する。また、各中学校区で入学前の不安感に関するアンケートを分析し、実態に応じた対策を図る必要がある。</p> <p>・英語サマーキャンプは、コロナ前の宿泊型で実施したが、ALTやESTの参画も高め、質の高い行事としたい。また、川薩地区中学校英語発表会は、今後も継続して実施していく。</p> <p>・「コミュニティ・スクールの充実」については、学校運営協議会委員に対し、学校への参画意識を一層高めるよう啓発していくとともに、児童生徒の姿や意見をもっと紹介し、活動に反映できるよう指導していきたい。</p>		

## 6 外部評価（外部評価委員の意見・提言）

- ・「甌アイランドウォッチング事業」は、児童にとって貴重な体験であるため、荒天時の中止を避けるために予備日を設けるなど、柔軟な対応を検討されたい。オンライン授業の活用も視野に入れていただきたい。
- ・小学校６年生の中学校入学前の不安感（41.3%）については、今後さらに減少させるための取組をされたい。
- ・小中一貫教育研究公開は、課題の掘り起こしと改善に資する重要な機会であるため、引き続き小中一貫教育の充実に取り組まされたい。また、教員異動時の引継ぎを徹底するなど、学校現場における日常的な意識づけを図られたい。

## 7 ２次評価（教育委員会による施策の方向性の評価）

☒ 継続・充実が必要である   ☐ 一部見直しが必要である   ☐ 大幅な見直しが必要である

小学校６年生の不安感が軽減されている点は、児童が安心して中学校へ進学できる環境づくりの成果として評価できる。中学校区において複数の小学校との交流が行われ、児童同士が顔の見える関係を築くこと等の活動により、小学校６年生の入学前の不安感の軽減につながっていることは、同様に評価できる。

また、英語教育に関しては、英語サマーキャンプなどの交流活動が充実しており、英検３級以上の取得率向上という成果も見られることから、今後もこうした取組が継続され、児童が安心して学びに向かえる環境の更なる充実に努められたい。

【基本情報】

<b>1 施策目標 (I - 2)</b>	
I 未来をたくましく生きる力を育む教育の推進	
<b>2 施策の方向性</b>	
I - 2 知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む教育の推進	
<b>3 施策（施策を実現するための主な事業等）</b>	
(1) 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学ぶ楽しさや喜びを味わう授業づくり</li> <li>・ 家庭学習時間「学年×10分間＋30分以上」の推進</li> <li>・ I C T活用やプログラミング教育の推進</li> </ul>
(2) 心の教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「考え・議論する道徳」の推進</li> <li>・ いじめ問題や不登校への適切な対応</li> <li>・ 心の教室相談員や適応指導教室指導員、スクールソーシャルワーカーとの連携</li> </ul>
(3) たくましい体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「早寝・早起き・朝ご飯、笑顔であいさつ・お手伝い」運動の推進</li> <li>・ 小学校綱引競技大会や一校一運動の推進</li> <li>・ 学校フッ化物洗口事業の推進</li> <li>・ 原子力防災訓練や避難訓練、通学路安全推進会議の充実</li> </ul>
(4) 特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 切れ目ない支援体制づくりの推進</li> </ul>
(5) 幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼・小接続の推進</li> </ul>
(6) 学校給食の充実 (教育総務課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地場産物の活用</li> </ul>
(7) 学校における業務改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育方法改善と業務改善を両輪とした取組</li> <li>・ I C Tを活用した校務支援</li> <li>・ 校務支援員の配置</li> </ul>
(8) 教職員の資質・指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導法研修会や学校教職員研修派遣事業の実施</li> </ul>
(9) 高等学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中高連絡会の充実</li> </ul>
(10) 鹿児島純心大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連携教育プロジェクトの充実</li> </ul>

【施策の取組状況】

4 実績及び教育振興基本計画に掲げた数値目標の達成状況	
確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種研修会や校内研修等で指導を繰り返してきたことで、北薩の授業づくり3ポイントや薩摩川内市学力向上プランを基に、一層学習者主体の授業づくりを意識するようになってきた。また、生徒指導と学習指導の一体化についても指導した。</li> <li>・ 授業と接続した家庭学習について、前向きに取り組む生徒が増えてきた。今後、タブレットを持ち帰る際の課題についても指導していきたい。</li> <li>・ 数値目標は、R5年度より、小学校で0.7ポイント、中学校で0.3ポイント下がっており、授業改善への一層の推進が必要である。</li> </ul>
心の教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「考え・議論する道徳」を念頭に、指導主事が学校訪問、校内研修会で指導助言を行った。</li> <li>・ いじめ問題については、毎月のアンケートや日常の観察・教育相談等から、早期発見・対応に努め、1件でも多く認知し、解消するよう指導を継続していく。</li> <li>・ 令和6年度は、本市の小中一貫教育を生かし、中学校区での「魅力ある学校づくりプロジェクト」を強力に推進したこともあり、新規の不登校数が減少した。しかし、不登校の出現率は、小学校は減少傾向にあるが、中学校は増加しているので、取組の充実が必要である。</li> </ul>
たくましい体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度は、市誕生20年記念大会として小学校綱引大会を全校が参加して開催することができた。</li> <li>・ 体力向上に向け、各学校の実態に応じた一校一運動の継続的な実施や「体力アップ！チャレンジかごしま」への全校参加を指導した。</li> <li>・ 「体力アップ！チャレンジかごしま」では、1校が学校賞受賞、11校が上位入賞を果たした。</li> <li>・ ヘルメット着用率は、昨年度より向上したが、100%に向けて指導を継続したい。</li> </ul>
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年4回の特別支援教育担当者会や校内研修等において、特別支援教育についての理解を深めることができた。</li> <li>・ 障害福祉課や児童発達支援事業所、幼稚園・保育園等と就学前の情報を共有するなど、関係機関との連携を深めることができた。</li> </ul>

幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼保小連携研修会を開催し、幼保小連携の事例発表や講演を通して、幼保小の円滑な接続についての理解を深めることができた。</li> </ul>
学校給食の充実 (教育総務課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薩摩川内産米の活用により、地場産物の利用率が向上した。</li> <li>・ 青果物の利用については、農業政策課及び生産者等と協議を進め、積極的な活用に取り組みたい。</li> </ul>
学校における業務改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月の勤務実態調査の結果を基に、時間外勤務時間の縮減や業務の見直しについて管理職研修会等で指導を行った。また、超過勤務が 80 時間を超えている職員が在籍する学校には、校長に勤務状況の聞き取り等を行った。</li> <li>○「時間外勤務が月 45 時間以内の職員の割合」 本市 上半期 74.8% (R5 72.8%) 下半期 78.2% (R5 77.9%) 目標値 80%</li> <li>○「時間外勤務が年 360 時間以内の職員の割合」 本市 56.6% (R5 52.2%)</li> <li>・ 令和 6 年度は、「先生の幸せ研究所」のサポートを受け、市内全ての学校で教育活動の質の向上と業務改善の両立に取り組んだ（文部科学省「学校における働き方改革推進事業」）。</li> <li>・ 令和 7 年度は、校務支援員を、兼務校を含めて全ての学校に配置する計画である。</li> </ul>
教職員の資質・指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理職研修会や校内研修での指導主事の指導助言では、生徒指導提要に基づいた指導、県・地区・本市の学力向上の施策等を踏まえた指導を行った。</li> <li>・ 学校教職員研修派遣として、小中一貫全国サミットに 6 人を県外の研修に派遣した。</li> </ul>
高等学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中高連絡会、上級学校説明会、体験入学等が計画通り実施された。</li> <li>・ 高等学校の公開授業に小・中・義務教育学校の教職員が参加することで、連携の充実を図った。</li> </ul>
鹿児島純心大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究授業サポート事業（年 6 回、参加者総数 118 人）であったが、前年度と比較して減少したので、学校への啓発を図っていく。</li> </ul>



◇指標及び実績

指 標	教育振興 基本計画 策定時	実 績					数値 目標
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
標準学力検査 (N R T)の 偏差値平均 (全国を 50 とした場合)	小 49.4% 中 48.4% (R 1)	小 48.6% 中 48.7%	小 50.1% 中 48.5%	小 49.8% 中 47.9%	小 49.3% 中 47.8%	小 48.6% 中 47.5%	小 53.0% 中 52.0% (R 6)
家庭学習時間 「学年×10 分＋ 30 分以上」	小 68% 中 56% (R 1)	小 71.8% 中 64.7%	小 65.9% 中 60.0%	小 73.6% 中 53.4%	小 71.1% 中 69.9%	小 67.9% 中 70.8%	小 80% 中 80% (R 6)
教職員の I C T活用指導力の 「活用できる」評価	平均 83.0% (H30)	平均 67.3%	平均 72.8%	平均 76.5%	平均 80.7%	平均 83.0%	90% (R 6)
学校に行くことが 楽しいと感じる 全児童生徒の割合	97.6% (H30)	97.2%	97.4%	96.9%	97.3%	97.0%	100% (R 6)
不登校の出現率 (中学生)	1.35% (H30)	5.46%	6.76%	7.87%	8.31%	8.61%	1.00% (R 6)
全国を 100 としたときの 児童生徒の 体力・運動能力 (小中学校全学年対象)	97.01 (H30)	小男 96.9 小女 97.7 中男 94.3 中女 94.3 全体 96.3	小男 94.8 小女 98.2 中男 96.8 中女 96.2 全体 96.6	小男 96.4 小女 95.5 中男 95.9 中女 95.5 全体 95.9	小男 97.4 小女 98.0 中男 95.5 中女 94.8 全体 96.9	小男 95.9 小女 96.7 中男 95.9 中女 94.0 全体 95.7	105 (R 6)
D M F T 指数※ (中学 1 年)	1.05 本 (R 1)	0.85 本	0.86 本	0.66 本	0.60 本	0.53 本	0.7 本 (R 6)
ヘルメット着用率 (小中学校全学年対象)	91.8% (H30)	93.7%	94.5%	93.1%	94.8%	95.0%	100%
地場産物の活用 (教育総務課)	23.0% (H30)	23.3%	22.4%	24.3%	25.6%	22.5%	26% (R 6)

※ D M F T 指数：未処置歯（D）、喪失歯（M）、処置歯（F）、の合計を被験者数で割った一人当たりのDMFの本数

【点検及び評価】

5 1次評価（自己評価）

妥当性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>知・徳・体の面で、評価の指標がバランスよく示されており、目標値に到達している項目もあるが、下降傾向の項目もある。</p>
効率性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>諸施策を「魅力ある学校づくりプロジェクト」に関連付け、一体的に捉えて指導することで、各学校の様々な取組が整理されてきている。</p>
達成度	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>教職員のICT活用指導力やDMFT指数、ヘルメット着用率については成果が見られた。一方、学力向上や児童生徒の体力・運動能力など、成果が見られなかった項目については、取組を工夫する必要がある。</p>
<p>＜今後の取組・課題＞</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上については、管理職研修会や校内研修会で、本市の学力向上プランや「学びの羅針盤」、「北薩の授業づくり3ポイント」「生徒指導提要」等に基づいて、「学習者主体の授業」の実施に向けて指導を強化する。</li> <li>・家庭学習については、年3回の実態調査の結果を踏まえ、小学校の家庭学習時間の確保や、タブレットの持ち帰りによる内容の充実について指導をする。また、タブレット端末の効果的な活用を一層促すため、校内研修や学校訪問等での具体的な指導を継続する。</li> <li>・令和6年度は、不登校児童生徒の学びの場を保証するため、「学びの多様化支援策検討委員会」を立ち上げた。令和7年度は、スマイルルームに加え、川内北・川内中央・川内南中に校内教育支援センターを設置し、不登校（傾向）児童生徒の学校内での居場所を確保していく。</li> <li>・自校の実態を踏まえた教科体育や体育的行事の工夫や改善に取り組むとともに、「一校一運動」「体力アップ！チャレンジかごしま」への継続した取組を推進し、運動の日常化を図る。</li> <li>・教職員の業務改善については、各学校が授業を本丸として、教育の質の向上と業務改善に向けて自走できるよう、サポートしていく。</li> <li>・切れ目ない支援体制の構築やキャリア教育の視点からも、今後も幼・保及び高等学校との連携の充実を目指す。</li> </ul>		

## 6 外部評価（外部評価委員の意見・提言）

- ・ I C T 指導力の平準化が課題であり、教員間で指導力に差があるため、研修等を通じて均質化を図られたい。
- ・ 特認校制度については、保護者への説明を丁寧に行い、制度の理解と活用を促進されたい。
- ・ 紹介のあった川内北中学校の新規不登校減少については、小中一貫教育におけるミドルゴール・ファイナルゴールの共有などの取組が浸透した結果と思われる。他校においても魅力ある学校づくりを推進する中で、好事例を参考にしながら更なる充実が図られるよう努められたい。
- ・ 生徒指導・学力向上は、教師主導だけでなく、児童生徒の自立的な課題解決力を育む支援が重要である。
- ・ 文部科学省による「働き方改革推進に関する調査研究事業」として、川内南中学校が取り組んだ成果を他校へ共有し、教職員の負担軽減を図られたい。
- ・ 確かな学力の育成については、すぐに効果が表れるものではないことから、継続して取り組んでいく必要がある。各種研修会や校内研修会において「北薩の授業づくり3ポイント」や「薩摩川内市学力向上プラン」に基づいた「学習者主体の授業づくり」についての意識づけを強化するなど、各学校の授業改善に向けた指導に取り組まれたい。

## 7 2次評価（教育委員会による施策の方向性の評価）

■継続・充実が必要である □一部見直しが必要である □大幅な見直しが必要である

スマイルルームの活用状況については、児童生徒の安心感や支援体制の充実に資するものとして、今後の展開を見守っていきたい。体力向上への取組についても、引き続き注力されたい。

また、「先生の幸せ研究所」のサポートを受けて、全ての学校で教育活動の質の向上と業務改善の両立に取り組む姿勢が見られる点は評価できるため、今後もこうした取組を継続し更に充実されたい。

加えて、不登校対策や学校の魅力向上の観点から、各学校の特色を生かした「魅力ある学校づくりプロジェクト」を一層推進し、地域と連携した取組を図られたい。

【基本情報】

<b>１ 施策目標（Ⅱ－１）</b>	
Ⅱ 地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進	
<b>２ 施策の方向性</b>	
Ⅱ－１ 家庭の教育力の向上	
<b>３ 施策（施策を実現するための主な事業等）</b>	
(1) 家庭教育学級の充実	・ 全幼・小・中・義務教育学校での家庭教育学級の開設
(2) 子育てサロンの充実	・ 子育て世代への相談体制の充実
(3) P T A や子ども会活動の充実	・ 市 P T A 連絡協議会や市子ども会育成連絡協議会の充実

【施策の取組状況】

<b>４ 取組実績及び教育振興基本計画に掲げた数値目標の達成状況</b>	
家庭教育学級の充実	各学校等で家庭教育学級を開設して、保護者による学習・交流を行った。また、子育ての悩みや親の子供への関わり方、親自身が教養を高める場として、家庭教育学級講演会及び研修会を開催し、家庭教育の充実に努めた。数値目標について、目標値には届かなかったが、学校ごとに学習テーマを定め、問題解決に向けた学習や情報共有を行った。
子育てサロンの充実	毎週水曜日に中央公民館で子育てサロンを行い、参加者の子育てに関するアドバイスを子育てサポーターが行った。また、歯科相談及び保健師相談を行い、相談体制の充実に努めた。
P T A や子ども会活動の充実	子供たちのための保護者と教職員の組織である P T A や異年齢の子どもたちの組織である子ども会において、P T A 保護者研修会や青少年育成の日のつどい及び子ども会大会を開催し、活動の支援に努めた。

◇指標及び実績

指 標	教育振興基本 計画策定時	実 績					数値 目標
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
家庭教育学級参加者数		延べ	延べ	延べ	延べ	延べ	
学校で行う学習	延べ 14,947 人	5,894 人	4,396 人	6,105 人	8,056 人	8,308 人	15,000 人
市全体で行う学習	延べ 929 人(R 1)	0 人	225 人	372 人	552 人	585 人	1,000 人 (R 6)

【点検及び評価】

5 1次評価（自己評価）		
妥当性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	幼児や児童への虐待防止、規則正しい生活習慣やしつけの在り方、SNSが抱える課題や関わり方等について、様々な問題を学習テーマとした学級の開設を行った。
効率性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	保護者同士で、横のつながりができ、子育てに関する悩みや情報交換の場として活用された。
達成度	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	家庭教育学級、PTA及び子ども会において、講演会や研修会を開催し、子どもの居場所づくりや親子の絆づくりなど、家庭教育の重要性を認識していただくことに努めた。
＜今後の取組・課題＞		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育学級や講演会に保護者が参加しやすい日程設定や参加されていない保護者へ呼びかけることで、保護者全体の意識を高める必要がある。</li> <li>・喫緊の課題（ネット依存等）について、各家庭での悩みや取組を共有し、保護者と連携して取り組む。</li> <li>・子育てサロンの周知・広報の充実を図り、情報交換の場として提供を図る。</li> </ul>		

## 6 外部評価（外部評価委員の意見・提言）

- ・ＰＴＡの存続と改革について、各校のＰＴＡ会長の意見を集約し、良い点は継続、課題は改善する方向で進められたい。
- ・地域と学校の連携強化が必要であり、学校事件等の情報共有について、民生委員等との連携を検討されたい。
- ・学校だけでは解決できない課題が増えており、教育は地域全体で担うべき時代になっている。ＰＴＡ参加も「お願いします」ではなく、「参加してもらわないと困る」という姿勢で、課題を共有し共に取り組まれたい。

## 7 2次評価（教育委員会による施策の方向性の評価）

■継続・充実が必要である    □一部見直しが必要である    □大幅な見直しが必要である

家庭教育学級や講演会等の取組においては、保護者同士のつながりを深める工夫をされたい。特に、参加が少ない保護者をいかに巻き込んでいくかが今後の課題であり、参加しやすい環境づくりや魅力ある内容について工夫されたい。

【基本情報】

<b>1 施策目標 （Ⅱ－2）</b>	
Ⅱ 地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進	
<b>2 施策の方向性</b>	
Ⅱ－2 地域の教育力の向上	
<b>3 施策（施策を実現するための主な事業等）</b>	
(1) 学校支援ボランティア事業の充実	・学校支援ボランティア事業、地域学校協働活動の充実
(2) 放課後の子供たちの安全・安心の確保	・放課後子ども教室事業の推進
(3) 「青少年育成の日」と「家庭の日」の取組の充実	・「青少年育成の日」と「家庭の日」の連動

【施策の取組状況】

<b>4 取組実績及び教育振興基本計画に掲げた数値目標の達成状況</b>	
学校支援ボランティア事業の充実	<p>地域の人々が学校を支援するボランティアとなり、学校の要望に応じた支援活動を行う事業「さつませんだい学校応援団」を実施した。</p> <p>数値目標については、登録者数及び実績件数共に、前年度から若干の減少はあったものの、掲げた目標数値を大幅に上回ることができた。</p>
放課後の子供たちの安全・安心の確保	<p>子供たちに学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する「峰山放課後子ども教室」を峰山地区コミュニティ協議会への業務委託により実施し、地域の教育力向上や子供たちが安心して暮らせる環境づくりに努めた。</p>
「青少年育成の日」と「家庭の日」の取組の充実	<p>県が定める毎月第3土曜日の「青少年育成の日」、翌日の日曜日の「家庭の日」に合わせて毎月第3土曜日に「特別街頭補導」を実施し、青少年の非行防止に努めた。</p> <p>また、両日の目的や取組の周知を行い、家庭・学校・地域社会の三者一体での青少年の健全育成推進に努めた。</p>

◇指標及び実績

指 標	教育振興 基本計画 策定時	実 績					数値 目標
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
学校支援ボランティアの 登録者数、実施件数	513 人 573 件 (H30)	610 人 (団体) 473 件	612 人 (団体) 603 件	605 人 (団体) 1226 件	609 人 (団体) 1619 件	591 人 (団体) 1315 件	550 人 600 件 (R 6)

【点検及び評価】

5 1次評価（自己評価）

妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>学校支援ボランティア事業は、地域の人々による支援が、学校と地域の強い連帯感を生み出している。</p> <p>放課後子ども教室事業は、子供たちの放課後の居場所を醸成し、安全・安心を確保している。</p> <p>「青少年育成の日」と「家庭の日」を連動させた取組は、家庭・学校・地域社会の三者一体での青少年の健全育成に寄与している。</p>
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>学校支援ボランティア事業においては地域住民に協力いただき、放課後子ども教室事業においては地区コミュニティ協議会の協力をいただいております。地域をよく知る方々の協力により、円滑に事業を実施している。</p>
達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>数値目標を達成した学校支援ボランティア事業をはじめ、放課後子ども教室や特別街頭補導など、地域全体で一体となって実施した。</p>

＜今後の取組・課題＞

学校支援ボランティア事業については、ボランティア登録者の高齢化による辞退が増加しており、継続して事業を充実させるために、団体登録を含め、幅広い年代の人材を確保する必要がある。

また、地域学校協働活動を推進するため、地域と学校の連携を更に深めていく必要がある。

6 外部評価（外部評価委員の意見・提言）

・コロナ禍後の活動回復により、ボランティア実施件数が増加している。今後も地域との協働を強化されたい。



**7 2次評価（教育委員会による施策の方向性の評価）**

■継続・充実が必要である    □一部見直しが必要である    □大幅な見直しが必要である

放課後子ども教室事業については、更なる内容の充実と継続的な推進に努められたい。  
また、学校支援ボランティアについては、幅広い年代の人材確保により継続されたい。

【基本情報】

<b>１ 施策目標（Ⅱ－４）</b>	
Ⅱ 地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進	
<b>２ 施策の方向性</b>	
Ⅱ－４ 総合的なネットワークの連携強化	
<b>３ 施策（施策を実現するための主な事業等）</b>	
(1) 青少年の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青少年育成市民会議活動の充実</li> <li>・ 青少年フレッシュ体験事業の実施</li> </ul>
(2) 少年愛護センターの活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全パトロールの実施</li> </ul>

【施策の取組状況】

<b>４ 取組実績及び教育振興基本計画に掲げた数値目標の達成状況</b>	
青少年の健全育成	<p>青少年育成市民会議活動については、各地域において青少年育成活動事業（街頭補導等）を実施し、保護者、地域及び学校ぐるみで青少年を育てる環境づくりに努めた。</p> <p>上記については数値目標を掲げており、地域の青少年（健全）育成会の活動回数は目標に近い数値であったが、活動人数については、前年度から増加したものの、目標数値を下回った。</p> <p>青少年フレッシュ体験事業については、２０人の児童生徒を北海道ニセコ町に派遣して現地の児童生徒との交流を行い、文化芸術体験や自然体験を通して、心身のたくましさや集団の中で幅広い視野を持つ青少年の育成に努めた。</p>
少年愛護センターの活動の推進	<p>青色防犯パトロール車による安全パトロール（下校時：毎日、登校時：月２回）や長期休業中に店舗等立入り補導を実施したほか、年２回開催する少年愛護委員連絡会議において、各地域の少年愛護委員と情報共有及び相互連携を図った。</p>

◇指標及び実績

指 標	教育振興基本計画策定時	実 績					数値目標
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
地域の青少年(健全)育成会の活動回数、活動人数	125 回 12,048 人 (H30)	82 回 3,449 人	80 回 3,705 人	94 回 3,318 人	97 回 4,971 人	125 回 5,611 人	130 回 12,500 人 (R 6)

【点検及び評価】

5 1次評価（自己評価）		
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>青少年育成市民会議において実施する青少年育成活動事業は、地域全体で青少年を育てる環境づくりに寄与している。</p> <p>北海道ニセコ町へ児童生徒を派遣する青少年フレッシュ体験事業は、参加者同士や現地の方々との新たな交流を生み出している。</p> <p>安全パトロールや少年愛護委員連絡会議等の少年愛護センターの活動は、地域内・各地域間の情報共有及び相互連携につながっている。</p>
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>青少年育成市民会議においては、各地域の青少年（健全）育成会が、地域・学校・PTA・子ども会と連携して様々な趣向を凝らした活動を行っている。</p> <p>青少年フレッシュ体験事業は、隔年で派遣と受入れを交互に実施しており、計画・準備を念入りに行い、継続的な事業として展開している。</p> <p>少年愛護センターにおいては、班会や連絡会議により地域間の情報共有や相互連携を密に図っている。</p>
達成度	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>地域の青少年（健全）育成会の活動人数という数値目標は達成できなかったものの、青少年育成市民会議や少年愛護センターの活動を通じて、保護者、地域及び学校間等のネットワークの連携強化を図ることができた。</p>
＜今後の取組・課題＞		
<p>数値目標を達成できなかった地域の青少年（健全）育成会の活動人数については、各地域の育成会との情報共有や連携をこれまで以上に密にしながら活動への参加を積極的に呼掛け、目標達成に努めたい。</p> <p>また、安全パトロールや街頭補導などを実施し、今後も地域ぐるみで青少年の健全育成に努めてまいりたい。</p>		

## 6 外部評価（外部評価委員の意見・提言）

- ・ニセコ町との交流事業は、児童生徒の視野を広げる貴重な機会であり、大事にしていきたい。
- ・補導活動は、子どもや地域の状況を把握し、課題を地域全体で共有するきっかけになる。補導そのものよりも、見えてきた実態を地域で共有し、継続的に取り組まれない。

## 7 2次評価（教育委員会による施策の方向性の評価）

■継続・充実が必要である    □一部見直しが必要である    □大幅な見直しが必要である

地域全体で子供を見守り育てる意識の醸成は、教育環境の質の向上に資するものであり、今後も連携体制の強化と活動を充実されたい。

【基本情報】

<b>1 施策目標（Ⅱ－5）</b>	
Ⅱ 地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進	
<b>2 施策の方向性</b>	
Ⅱ－5 「少年自然の家」における青少年教育・生涯学習の充実	
<b>3 施策（施策を実現するための主な事業等）</b>	
(1) 「少年自然の家」における青少年教育・生涯学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏・冬のアドベンチャー事業の充実</li> <li>・プラネタリウム活用事業等の充実</li> <li>・集団宿泊学習をはじめとする学校教育を補完する事業、体験的適応指導教室リフレッシュ in 寺山</li> </ul>
(2) 「少年自然の家」の効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い年齢層、地域の人々との交流ができるプログラムの開発</li> </ul>
(3) 「少年自然の家」における青少年指導者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域指導者養成講座の実施</li> </ul>

【施策の取組状況】

<b>4 取組実績及び教育振興基本計画に掲げた数値目標の達成状況</b>	
「少年自然の家」における青少年教育・生涯学習の充実	<p>【「少年自然の家」における青少年・生涯学習の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 両アドベンチャー共に市内児童生徒から定員以上の多数の応募があり、活動内容も充実したものになっている。参加児童生徒が、自ら考え、行動し、自らを高められるような活動を今後も続けていく。</li> <li>○ プラネタリウム活用事業については、年に4回の開放事業に加え、フェスタ等での無料開放、各団体への利用促進を図ることができている。</li> <li>○ 集団宿泊学習（67団体）や適応指導教室リフレッシュ in 寺山（年9回実施）の活動を自然の家で実施することで、自己肯定感の向上を目指している。</li> </ul>

「少年自然の家」の効果的な活用	<p>○ 成人向けの事業「元気はつらつスクール」を年2回実施した。</p> <p>○ てらやまんち森の学校等、一般成人を対象にした事業の充実に努めた。</p>
「少年自然の家」における青少年指導者の育成	<p>地域指導者養成講座等を実施しているが、参加者数が伸び悩んでいる。</p> <p>地域指導者養成校講座参加数（定員：40人に対し27人参加）</p>

◇指標及び実績

指 標	教育振興 基本計画 策定時	実 績					数値 目標
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
利用状況	37,466人 (H30)	7,378人	8,450人	11,193人	15,368人	19,423人	39,000人 (R 6)

【点検及び評価】

5 1次評価（自己評価）		
妥当性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>アドベンチャー事業は、毎回多数の応募もあり、多くの参加者から満足したアンケート結果をもらっている。活動の内容については報告書にまとめて、各学校や参加者に配布している。</p>
効率性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>プラネタリウムの活用事業の充実については、宇宙館との連携を図り、出張指導等行うことにより、より多くの市民の方に星への興味を持ってもらえるようにした。</p>
達成度	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>それぞれの事業について、利用者の増加がみられたが、さらに多くの市民の皆様に利用してもらうための方策をとっていききたい。特に一般成人を対象にした事業について、力を入れていききたい。</p>

＜今後の取組・課題＞

【夏・冬のアドベンチャー】

事業全体において職員体制の確保が課題となっているが、これまでの反省や経験を踏まえ、職員間の連携強化やマニュアルの整備等を通じて、安全面に十分配慮した事業運営に努めている。今後も、参加者が安心して活動に取り組める環境づくりを進め、事業の充実を図っていききたい。

【プラネタリウム活用事業等の充実】

年4回の「レッツゴープラネタリウム」の内容を充実させることや新規利用者の利用促進を行うために、広報の工夫を行う。

【適応指導教室リフレッシュin 寺山】

宿泊を伴う活動を取り入れ、参加児童の増加と活動内容の充実と新規の参加者の確保のための新しい取組みやスマイルルームと連携を充実させたい。

【地域指導者養成講座】

広く市民への参加募集に係る、広報・周知が不十分であった。関係機関との連携や会合等での周知活動を充実させる。

6 外部評価（外部評価委員の意見・提言）

・プラネタリウム活用事業やアドベンチャー事業は、児童の自己成長を促す重要な機会であり、今後も継続して取り組まれたい。

7 2次評価（教育委員会による施策の方向性の評価）

■継続・充実が必要である □一部見直しが必要である □大幅な見直しが必要である

自然環境を活かした体験活動を通じて、青少年の成長を支える取組が着実に実行されており、今後も継続して内容を充実されたい。

【基本情報】

<b>1 施策目標（Ⅲ－1）</b>	
Ⅲ 生涯学習の充実をめざす環境づくりの推進	
<b>2 施策の方向性</b>	
Ⅲ－1 生涯学習の展開	
<b>3 施策（施策を実現するための主な事業等）</b>	
公民館等における生涯学習の充実	・教養講座や生きがいづくりに資する講座等の生涯学習活動の充実

【施策の取組状況】

<b>4 取組実績及び教育振興基本計画に掲げた数値目標の達成状況</b>	
公民館等における生涯学習の充実	<p>中央公民館及び地域公民館を拠点として、教養講座や生きがいづくりに資する講座等を企画・運営を行い、生涯学習活動の更なる充実に努めた。参加者のニーズを調査して、教養講座や現代的課題等を組み込んだ講座の開設に努めた。</p> <p>数値目標について、市民大学講座参加者数は前年度実績から増加したものの、参加者が定員に満たない講座もあり、目標数値を下回った。</p>

◇指標及び実績

指 標	教育振興基本計画策定時	実 績					数値目標
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
市民大学講座参加者数 (延べ人数)	4,830 人 (H30)	2,220 人	2,925 人	3,411 人	3,407 人	3,531 人	5,000 人 (R 6)

【点検及び評価】

<b>5 1次評価（自己評価）</b>		
妥当性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	健康づくり、ボランティア、防災、地域の特色を活かした講座及びパソコン、スマホ等の現代的課題に即した講座を開設した。
効率性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	参加者が固定されている講座を見直したほか、ニーズや時流にあった生涯学習講座を開設した。



達成度	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	多様な学習機会を提供し、参加者へ生きがいくりの提供に努めた。
<p style="text-align: center;">＜今後の取組・課題＞</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な学習ニーズに対応するために、さまざまな内容の講座開設を行い、超高齢化社会を反映して高齢の参加者が多い状況にあるため、今後も、託児付き講座などを取り入れ若い世代の参加者を増やす取り組みに努める。</li> <li>・ 今後も学習ニーズの変化・時流に対応し、現代的課題を取り入れた講座の開設に努める。</li> </ul>		

<p><b>6 外部評価（外部評価委員の意見・提言）</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代的課題となるスマホ・タブレット等への対応は重要であり、ニーズに応じた講座設計を継続されたい。</li> <li>・ 学びの機会の保障が重要であるため、定員未満の講座も、少人数でも必要性が高ければ継続されたい。</li> </ul>

<p><b>7 2次評価（教育委員会による施策の方向性の評価）</b></p>
<p> <input checked="" type="checkbox"/>継続・充実が必要である           <input type="checkbox"/>一部見直しが必要である           <input type="checkbox"/>大幅な見直しが必要である       </p>
<p>広報活動の工夫により、より多くの市民が生涯学習に関心を持ち、参加できる環境づくりが求められる。講座内容の充実と周知の強化に引き続き取り組まれない。</p>

【基本情報】

<b>１ 施策目標（Ⅲ－２）</b>	
Ⅲ 生涯学習の充実をめざす環境づくりの推進	
<b>２ 施策の方向性</b>	
Ⅲ－２ 図書館機能の充実と読書活動の推進	
<b>３ 施策（施策を実現するための主な事業等）</b>	
(1) 市民に親しまれる図書館運営	・ 図書館資料及び相談業務等サービスの充実、施設環境の整備
(2) 読書活動の推進	・ おはなし会事業や参加型読書講座の開催
(3) 機材（16 ミリ等）・教材（DVD 等）の活用による利用促進	・ 機材（16 ミリ等）・教材（DVD 等）の活用と充実、映画会開催による利用促進

【施策の取組状況】

<b>４ 取組実績及び教育振興基本計画に掲げた数値目標の達成状況</b>	
市民に親しまれる図書館運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蔵書選定委員会選定による図書購入や利用者からの「リクエストサービス（希望図書購入）」を活用した図書購入等を実施し、市民の生活や学習等に役立つ図書館資料の充実に努めた。</li> <li>・ 利用者が希望する図書館資料を県内外の図書館から借りて貸出をする「相互貸借サービス」のほか、福祉施設等への「配送」、地区コミュニティセンターへの「配本」などの貸出事業の充実に努めた。</li> <li>・ 薩摩川内市電子図書館利用の周知を図るとともに、電子書籍の充実に努めた。</li> <li>・ 大人の図書館見学ツアーの実施並びに児童・生徒の職場体験学習の受け入れを行い、親しみやすい図書館運営に努めた。</li> </ul>
読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おはなし会開催や児童クラブ等への出張おはなし会、ぬいぐるみおとまり会や読書グループ等に対する「おはなし実践講座」などの利用者参加事業を開催し、読書活動の推進に努めた。</li> </ul>
機材（16 ミリ等）・教材（DVD 等）の活用による利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視聴覚ライブラリーにおいて、機材の整備や教材の購入を始め、所有教材及び県視聴覚ライブラリーの教材を活用した映画会開催や視聴覚機器操作に関する講座の開催、また、年４回「視聴覚ライブラリーだより」を発行し、事業並びに新規機材・教材の周知・利用促進に努めた。</li> </ul>

◇指標及び実績

指 標	教育振興 基本計画 策定時	実 績					数値 目標
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
中央館・分館 の入館者数 (各年度末)	124,931 人 (H30)	85,908 人	64,856 人	82,685 人	85,886 人	84,173 人	126,000 人 (R 6)
住民一人あた りの貸出冊数	3.60 冊 (H30)	2.97 冊	2.48 冊	3.00 冊	2.90 冊	2.87 冊	3.62 冊 (R 6)

【点検及び評価】

5 1次評価（自己評価）		
妥当性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>蔵書選定委員会選定による図書購入やリクエストに基づく図書購入、資料収集等を行ったほか、「薩摩川内市電子図書館」サービスの充実を図った。</p> <p>また、利用者のニーズに応じた「おはなし実践講座」等の開催、学校コース、一般コースの移動図書館車巡回等の様々な事業を実施した。</p>
効率性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>図書館の開館日や開館時間、天候、距離等を気にせず、いつでもどこでも、インターネットを通じて検索・貸出・返却・閲覧ができる環境や、音声読み上げ機能等で読書困難者や高齢者も気軽に本を閲覧できる電子図書館サービスの充実を図った。</p>
達成度	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	<p>閲覧・貸出・相談業務等のサービスの充実や様々な事業を開催し、入館者数については84,173人（前年比98%）、貸出冊数については257,438冊（前年比利用98%）と利用数を維持できた。</p> <p>今後も、市民の利用しやすい図書館運営に努めたい。</p>
＜今後の取組・課題＞		
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の老朽化に対する修繕等を行いつつ、安全で利用しやすい施設と読書環境の整備を行う必要がある。</li> <li>更なる来館者の増加につながる魅力的な講座やイベントを実施する。</li> <li>情報発信のため、図書館ホームページの充実をはじめ、市公式LINEの活用等広報の方法について工夫する必要がある。</li> <li>電子図書館における電子書籍の更なる充実を図り、利用者の多様な読書要求に応えるとともに、広報活動も継続して行う。</li> </ul>		

## 6 外部評価（外部評価委員の意見・提言）

- ・ 図書館の存在意義を市民に伝え、施設の魅力を高める取組を推進されたい。
- ・ 電子図書館コンテンツの更なる充実を行い、利用者拡大を図られたい。
- ・ 市民が集う場として、今後も企画力を高めて利用促進を図られたい。
- ・ 「ぬいぐるみおとまり会」事業のように、いろいろなアイデアを実現できる楽しい施設となるよう今後も努力されたい。

## 7 2次評価（教育委員会による施策の方向性の評価）

☒ 継続・充実が必要である
 ☐ 一部見直しが必要である
 ☐ 大幅な見直しが必要である

本を読むことは素晴らしいことであるので、図書館がより親しみやすく魅力ある場となるよう、環境面の充実に向けても工夫されたい。

【基本情報】

<b>1 施策目標（Ⅲ－3）</b>	
Ⅲ 生涯学習の充実をめざす環境づくりの推進	
<b>2 施策の方向性</b>	
Ⅲ－3 生涯学習を進めるコーディネート機能の充実	
<b>3 施策（施策を実現するための主な事業等）</b>	
(1) 人材バンク等の活用	・ 人材バンク「すてきびと」の登録促進と積極的活用
(2) わくわく薩摩川内土曜塾の充実	・ 毎月第4土曜日を中心に体験学習等を実施

【施策の取組状況】

<b>4 取組実績及び教育振興基本計画に掲げた数値目標の達成状況</b>	
人材バンク等の活用	生涯学習人材バンク「すてきびと」への登録を促進し、市民への情報提供や公民館講座、自主学級、家庭教育学級、地区コミュニティ協議会主催の生涯学習講座の講師等としての普及・活用に努めた。  数値目標について、新規登録もあったが、高齢化や自己都合を理由に登録抹消もあり、目標値に届かなかった。
わくわく薩摩川内土曜塾の充実	毎月第4土曜日を中心に、児童生徒が自ら選んで楽しめる体験学習や活動を実施し、児童生徒が土曜日を有意義で安全に過ごせる環境づくりに努めた。

◇指標及び実績

指 標	教育振興基本計画策定時	実 績					数値目標
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
すてきびと登録者数	60 人 (H30)	58 人	56 人	55 人	52 人	53 人	70 人 (R 6)

【点検及び評価】

5 1次評価（自己評価）		
妥当性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	公民館講座、自主学級、各地区コミュニティ及び学校等の様々な学習活動への提供が行われた。
効率性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	市ホームページや広報紙で事業の周知を行い、すてきびと登録者を活用した講座の支援を実施した。
達成度	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> 改善が必要である	生涯学習を通して、地域の人材の発掘及び学習ボランティアづくりを行っている。指導者も学習者も市民であり温かい雰囲気の中で、継続的な取り組みを推進している。すてきびとは新規登録もあったが、高齢や自己都合を理由に登録抹消もあった。
＜今後の取組・課題＞		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちづくりの原点は人づくりを基本理念に、生涯学習に対する認識を深め、すてきびとの新規登録者の確保につながるよう努める。</li> <li>・ 市民大学講座「すてきびと活躍講座（仮称）」を計画し、「すてきびと」の登録者が、自ら講座を企画・運営できるように努める。</li> </ul>		

6 外部評価（外部評価委員の意見・提言）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わくわく薩摩川内土曜塾については、今後も継続して取り組んでいただきたい。また、子どもの成長段階において柔軟な時期に体験を促すことが重要であることから、特に低学年児童に良い学びを提供していただきたい。</li> </ul>

7 2次評価（教育委員会による施策の方向性の評価）
<input checked="" type="checkbox"/> 継続・充実が必要である <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要である <input type="checkbox"/> 大幅な見直しが必要である
<p>人材バンク「すてきびと」は、地域の学びを支える取組として継続されており、登録者の広がりにつながるよう工夫されたい。</p>